慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	最近十年間に於けるアメリカの労働階級運動
Sub Title	
Author	園, 乾治
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1932
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.26, No.10 (1932. 10) ,p.1651(145)- 1687(181)
JaLC DOI	10.14991/001.19321001-0145
Abstract	
Notes	慶應義塾創立七十五年記念論文集
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19321001-0145

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

二　石川龍星　日本愛國運動總覽（昭和七年八月）
三　岡　見齊　國家主義運動大觀（昭和七年七月）
四　協調會勞働課　國家主義運動の現勢（昭和七年六月）
五　國家主義團體一覽（産業經濟資料第十一輯　昭和七年三月）
六　廣瀬庫太郎　日本に於けるファッシストの活動（昭和七年七月）

たゞ注意すべきことは、この内二、三、四、五は國家主義愛國主義の運動に關する斷片的羅列的記述であつて、殊に、（二）の如きは、多分の英雄主義的見地に立つてゐるものである。この點について、この方面の歴史及び現勢に關する必然性の記述はまだ存在しないといつて差支ない。屢々掲げた拙稿「日本におけるファッシズムの概觀」は多少この必然性を研究しやうとした論究であるから、參照して下されば、本論の理解に便することは多いことと思ふ。最後に、國家主義運動の方法について、何の記述もしなかつたが、これは、前期時代においては、説教的であり、中期においては暴力的であり、現代においては、集團政治運動及びテロルとして現はれてゐる一般的傾向の外に、議會否認的傾向を特徴とすべきであらうが、これらの點については、記載の自由を有せざるものと考へ、省略に附した。

（一九三二・八・三一・稿了）

最近十年間に於けるアメリカの勞働階級運動

園　乾　治

目次

一　勞働爭議
二　政治運動
三　勞働組合運動
以上

一　勞働爭議

一九一九年より一九二〇年に亘る製鋼業に於けるストライキは幾多の教訓を含む劃期的事件であつた。從來、世界有數の製鋼トラストである『合衆國製鋼會社』（United Steel Corporation）は一方に於て莫大なる利潤を擧げてゐ

るにも拘らず、極端なる勢力を勞働者の上に揮ひ、彼等を悲慘なる狀態に陷れて居た。然るにヨーロッパ戰爭は製鋼業の重要性を增加し、事業の休止は國家の危機を胎むが故に、所謂擧國一致の協定が『アメリカ勞働聯合』、American Federation of Labor,との間に締結せられた。併し乍らヨーロッパ戰爭は勞働者が團結する絕好の機會を齎した。一九一八年六月以來製鋼業に於てこの氣運が現れ、八月に至りて勞働組合の全國委員會が組織せられ、勞働爭議の際に相互に共力することになつた。其一方に於て『合同鐵鋼錫勞働者組合』（Amalgamated Association of Iron, Steel, and Tin Workers）は『合衆國製鋼會社』に對して事業主と勞働者との一致團結を要求した。會社はこの要求を拒絕し、積極的に組合員を壓迫した。其處で組合は全國委員會に援助を求めたが、滿足なる解決を得ることが出來ないで、遂に九月二十二日に至りストライキをなし、三十六萬五千の勞働者がこれに參加した。此製鋼勞働者のストライキに對して、基金を提供して援助をなしたる組合も若干あつたが『アメリカ勞働聯合』は殆んど何等なすところなく、又『合同鑛山勞働者組合』（United Mine Workers of America）は努めて製鋼勞働者と提携することを回避した。其一方に於て事業主は多數のストライキ破壞者を利用し、大統領ウィルスンも勿論會社側に味方したる結果、勞働者のストライキは完全に失敗に終つた。（このストライキに就ては拙稿「ヨーロッパ戰爭とアメリカ勞働階級」三田學會雜誌、第二十六卷第五號參照）

此製鋼勞働者のストライキを擊破したる結果、會社は勞働者に對する資本家の總攻擊の道を開くこととなつた。『全國製造業者協會』（National Association of Manufacturers）及び其外の傭主團體は、勞働組合を打倒して非組合工場制度を維持せよとの叫聲を擧げた。此叫聲に對しては新聞が應呼し全國に反響を及ぼした。各地の事業主は何れもこれを歡迎し、工場內の勞働組合の維持せる條件を全廢し、賃銀を切下げ、勞働組合を撲滅することは、組合勞働者に對する資本家の共同戰線の基礎をなした。然るに勞働者は共同戰線の重要性を十分に理解せず、製鋼業及び鑛詰業に於けるストライキを事業主の蹂躪するに任せた。彼等は『合同鑛山勞働者組合』が政府及び事業主に屈服し、沈默を守り、分裂するも顧る處がなかつた。事業主は此弱點を利用し祕密裡に防衞の爲めに團結した。

事業主の防衞には好都合の事情が種々存在した。第一に事業主は戰時及び其直後に於て非常なる鉅富を獲得し、勞働組合と戰ふ資金に缺くる處がなかつた。第二にこの時程政府が完全に大事業家の手中にありたることは前代未聞であつた。第三に一九二〇年末に戰爭に召集せられたる軍隊が動員を解除せられ、多數の兵士が就職を求めて工場に殺到した。而して第四に海外市場はアメリカの生產物を要求すること從來の如くならず、其輸出額は著しい減退を示した。斯の如くして一九二一年には失業の大浪がアメリカ全土に押寄せ、多數の勞働者が街路を彷徨した。これは事業主が現に使傭せる勞働者の賃銀を切下げ、又大戰中勢力を占め現在保守的指導者の下に古き職業的目和見的政策を採り、產業不況に直面して救援を有せざる勞働組合に一大打擊を加へる絕好の機會であつた。

一九二〇年春ヨーロッパ戰爭による好況期が破壞に近づけることが明かとなつた。ニュー・ヨーク州に於ては三月既に此兆候が現れ、八月にはアメリカの繁榮も峠を越してしまつたのであつた。而して七月には『アメリカ羊毛會社』が多數の勞働者を馘首し、羊毛業に於ける十萬人の失業者の前例を作つた。八月末纖維業には二十五萬の失

業者があり、十月には合衆國全土に於て失業の大浪が押寄せて來た。ニュー・イングランド、南部及び中西部の諸州に於て、工業及び農業勞働者の失業又は賃銀切下げが一般的に行はれた。斯の如き傾向は春より秋、秋より更に冬に亘り、何れの産業に於ても一層顯著であつた。其中に於て纖維工業が最も甚しかつた。十二月初め『アメリカ勞働聯合』の發表せる處によれば、全國に二百萬の失業者があり、翌一九二一年八月勞働大臣の發表せる處によれば、五百七十萬の失業者があると云はれる。

賃銀の減少は全國に亘りて一般的に行はれ、且つ多くの場合に於て莫大なる割合に達した。一九二一年と一九二〇年とを比較すれば、ニュー・ヨーク州に於ては二十パーセントの減少にして、ウィスコンシン州に於ては同じく四十五パーセントに達すると云はれる。其外の州に於てもこれと同樣の切下げが行はれ、或場合には其額は五十パーセントより七十五パーセントに及ぶと云はれてゐる。それにも拘らず事業主の利潤はこれと全く事情を異にする。取引は減退したけれど賃銀の切下げを以て事業主は從前と同樣の利益を維持することが出來、却て增加を示したものもある。勞働者の賃銀は生産費と同率を以て增加しなかつたのに、今や更に切下げらるる危險にあり、然も製鋼業のストライキの失敗によつて、無産階級の共同戰線は破壞せられてゐたのである。

一九二〇年西バージニア州の炭坑夫は『合同鑛山勞働者組合』の内に團結し始めた。これに對して事業主及び政府は極端なる壓迫を加へ、流血の慘事を見ること一再ならず、戒嚴令が布かれ、あらゆる手段を盡して勞働者の組合組織を妨げた。次で鐵道業の保線工夫及び轉轍手のストライキが起つた。彼等は何れの方面よりも援助を受くることが出來なかつた。彼等は指導者の承認を得る處か、寧ろ彼等の意志に反して此擧に出たのであつて、指導者は直ちにその不法なること宣言し、事業主と協力してこれを破壞するに至つた。鐵道勞働委員會も亦、同樣に不法なりと認め、斯の如き組合とは折衝を行はずと宣言した。このストライキに於て勞働者の失敗すべきことは始めより明かであつた。事業主はこれ等の勝利に益々力を得て、勞働組合を破壞する活動を繼續し、一九二二年に入るや産業界に於ける一大動搖の時代を出現した。この年程アメリカに於て激烈なる階級闘爭の行はれたる時代はない。纖維勞働者、石切工、坑夫、鐵道從業員は、事業主の賃銀切下げ及び勞働組合撲滅に對して敢然として起つた。アメリカ勞働史に於て斯の如き多數のストライキが行はれたることなく、又斯の如く長期間勞働者が事業を休止したることはなかつた。外面的に觀察すれば、多くのストライキは賃銀及び勞働時間に關する爭議に過ぎなかつたが、その根本に於ては金融及び産業の覇者に反抗する重大なる意義を有する暴動であつた。

然るに産業不況及び『アメリカ勞働聯合』の協調主義は、勞働組合の勢力を減殺し、彼等の抵抗力を喪失せしめた。これは統計の示す事實である。『國際海員組合』（International Seamen's Union）は一九二〇年より一九二一年迄の間に六萬五千の會員を失ひ、『アメリカ勞働聯合』は七十萬の會員を失ひ、『線路工夫組合』（Broatherhood of Maintenance-of-Way Men）は十二萬五千の會員を失つた。

これに反して事業者は著々その戰線を充實せしめ『全國製造業者協會』と『合衆國商業會議所』とは公然たる團體として活動を開始し、『全國非組合工場協會』（National Open Shop Association）は祕密裡に活動を開始した。こ

れ等の事業主の團體は、軍部方面及び警察方面と密接なる關係を有したることが明となつた。ストライキが起るか、若しくは勞働組合に對する鬪爭が發生する時は、何時でも軍隊及び警官隊が出動し、ストライキ破壞者を保護し、事業主の財産を保護するのが常であつた。而して斯の如き場合に、事業主は彼等の目的が勞働組合を盡く撲滅せしむるにあることを公然と宣言した。『合衆國商業會議所』は非組合工場たる權利、即ち事業主及び勞働者が相互に雇傭關係の條件を決定する權利は、兩當事者各自が有する個人的契約權の重要なる一部分をなすと決議した。『全國鑄物業者組合』(National Founders' Association) は非組合工場に就て、其發達は經濟關係の問題であり、產業に從事する人の慰藉であり、各人の愛國心を刺戟すると述べてゐる。而して非組合工場の爲めに活動せる團體は、四十四州の二百四十七都市に於て五百四十を數へ、この中には二十三の全國的事業主協會が含れてゐる。此外千六百の地方の商業會議所も亦、非組合工場主義に贊成してゐる。

一九二〇年十一月『アメリカ非組合工場傭主協會』(American Employers' Open Shop Association) は、諸都市のに手紙を送つて協會に參加を勸誘した。この文中には次の如く言つてゐる。乃ち「若しも諸君が勞働不安又はストライキに脅かされるならば、我團體と關係を結べ、然らば諸君の爲めに、我々はこれに適當の處置を講ずるであらう、若しも諸君が使傭人中に覆面の勞働者を要するならば、我等は諸君にこれを供給するであらう、諸君は彼等より毎日如何なることが起りつゝあるかの報告を受けるであらう、紛爭中に於て我等はストライキをなす勞働者を交替するであらう、又我々は多くの利益を生ずる福利增進倶樂部を設立するであらう」と云つてゐる。而してこれ等の活動は全く祕密裡に行れるのであつた。

一九二一年五月一日『國際活版工組合』(International Typographical Union) がストライキをなした。それは一年間繼續し、一千萬ドルを費した。その結果は、勞働組合の十分なる勝利を示さなかつたが、傭主は勞働組合を破壞することの容易ならざることを知つた。次で五月五日には鑛諸業の勞働者が、組合を維持し且つ賃銀の切下げに反對してストライキをなした。この時事業主は社會に彼等の公正なることを示すために、紙方の支配する所謂會社組合を組織し、賃銀切下げをこの組合の一般投票にかけた。其結果は云ふまでもなくこれを承認するに至つた。然るに政府の仲裁局はこの切下げに認可を與へず、仲裁問題となすことを要求した。事業主は勿論これを峻拒した。ストライキは長く繼續し激烈を極めた。而して事業主と政府との共力によりて擊破られた。

一九二二年八月ニュー・イングランドの纖維勞働者は賃銀を二十パーセント切下げられた。彼等は組合を有しなかつたので、これを承認する外なかつた。然るにそれより僅に六ケ月を經たるに過ぎぬ一九二二年一月、再び二十二パーセント半の賃銀の切下げが宣告せられた。これは餘りに過大であり、遂に勞働者はストライキをなし、ニュー・イングランドの各地に波及し、勞働者總數十萬がこれに參加した。賃銀が切下げられる以前に於ても、それは決して安易なる生活を與へるものではなかつた。『アメリカ綿絲製造業者協會』(American Cotton Manufacturers' Association) の數字によれば、北部に於ける不熟練勞働者の賃銀は平均一週十五ドル半、熟練及び熟練勞働者の賃銀は十七ドル乃至十八ドルであり、生活費の高きことと照應すれば、不足勝のものであつた。

事業主は勞働者の暴動に對して十分なる準備を有してゐた。彼等は豫め團結し、傭入るべき他の勞働者を多數見出し、政府の味方を有してゐた。加之、御用團體を召集し、工場は恰も要塞の觀を呈した。軍隊及び警官隊も銃砲を持つて出動した。裁判所はストライキ勞働者の工場監視の權利を停止する命令を發布し、嚴重に其行動を取締つた。然も勞働者は勇敢に彼等と戰ひ、遂に先づマサチューセッツ州ローレンスの傭主をして、賃銀の切下げを徹回せしめ、其他の都市に於てもこれに倣はしめた。而して七ケ月の激烈なる鬪爭の後、一九一二年九月一日遂にストライキは終熄した。尤も或る都市に於ては全然勞働者の失敗に歸し、賃銀の切下を承認せざるを得ないものもあつた。此ストライキ中に於て十以上の勞働組合が、各個の綱領と執行機關とを有し相互に反目し、『合同織維勞働組合』(United Textile Workers)『一大組合』(One Big Union)『アメリカ合同織維勞働者組合』(Amalgamated Textile Workers of America)『織維勞働者聯合』(Federation of Textile Workers) 等の指導者は相互に陷穽を造つた。

一九二二年四月一日、賃銀の切下げに反對して六十萬の炭坑夫がストライキをなした。これは未曾有の事件であつた。彼等の五十萬は『合同鑛山勞働者組合』の組合員であり、他の十萬は西バージニア州及び西部ペンシルベニア州の組合に加入せざる坑夫であつた。これより前、一九二〇年、政府の勸告に從つて勞働組合と事業主との間に、二年間に亘る契約が締結せられたのであるが、それが一九二二年四月一日滿期となつた。契約によれば期限前に兩當事者が契約を更新する爲めに協議する筈であつたが、事業主はこれを拒否し、二十五パーセント乃至三十五パーセントの賃銀切下げを宣告した。これが總ストライキの合圖であつた。

事業主も政府も勞働者のストライキを歡迎して居た。第一にストライキ破壞者として使傭し得る多數の失業勞働者があり、第二に事業主が價格の釣上げを希望したる餘剩の石炭があつた。これ等の事情は事業主をして一九二〇年の契約を無視せしめ、勞働組合と交渉することを拒否せしめるに至つた。政府が資本家側に味方したことは勿論で、ペンシルベニア州知事は、事前に暴動を鎭壓すべきことを管内の執行官に命令し、四月一日多數の銃砲及び軍需品が、オハイオ州の南部から輸送せられ、西バージニヤ州に於ては、警官隊が非常時の訓練を受け、裁判所は『合同鑛山勞働者組合』に對して州内に於けるストライキを殆んど不法に近からしめる禁令を發布した。

斯の如く賃銀を切下げんとする事業主及び政府の面前に、勞働者は賃銀二十パーセントの增額、無煙炭坑區域及び有煙炭坑區域に共通する協定を締結すること等を含む要求を提出した。此最後の要求は重大なる意義を有する。蓋し兩炭坑區域に對し期限を異にする別個の協定を有する時は勞働者を分割し、總ストライキを不可能ならしめ、勞働者の勝利は到底望むことが出來ないからである。

一九一九年より一九二〇年に亘る製鋼勞働者に對して用ひられたると同樣の權力が坑夫に對しても用ひられた。ストライキの行はれたる各都會に殆んど戒嚴令が布かれ、勞働者及び其家族を壓迫した。事業主は盛んにストライキ破壞者を輸入し、暴力團を利用した。而して六月二十一日鑛山を監視せる二名の組合勞働者が射殺せられた。翌朝多數の坑夫が鑛山に集合し、其處でも射擊が行はれ、砲手に十九名の死者を生じた。此結果全國の新聞及び資本家は一勢に起つて、鑛山所有者を應援するに至つた。而して七月十八日に至り大統領ハーディングは二十八州の知

事に命令を發し、事業主をして彼等の鑛山を、勞働せんとするものに十分なる保護を加へて開放せしむることとした。ペンシルベニヤ、インディアナ其他の州に於ても多數の兵士を派遣した。然るに勞働組合の指導者はこれに屈服せず、六千の坑夫が鬪爭を敢てした。數ヶ月を經過するもストライキの終熄は見えなかつた。此時に當り『合同鑛山勞働者組合』の會長ジョン・エル・リュイス（John L. Lewis）は八月十五日瀝青炭坑業者に對して獨立の協定を提案した。これは一九二三年三月三十一日を期限として承認せられた。其處で無煙炭坑夫は孤立せしめられ、九月三日に至り、リュイスの提案に基き、一九二三年八月三十一日に終る協定を成立せしめることとなつた。これ等の爭議に於て坑夫の得たる所は、賃銀の切下げを許さぬことであつたが、一個の協定に總合せしめなかつたのは、事業主の大なる勝利と云はなくてはならぬ。尙この爭議には組合に加入せざる坑夫も參加したが、組合の指導者は彼等を忘却したのであつた。それ故に彼等は今に至るも依然として組合外にあり、悲慘なる狀態に止つてゐる。

この時代に於ける最も重大なるストライキの一つは一九二二年の鐵道職工のストライキであつた。戰時に於ては鐵道は政府の統制の下にあつたが、私的統制に復歸するに及び勞資間の反目が起り、『鐵道勞働委員會』（Railroad Labor Board）が勞資間の平和を維持する目的を以つて組織せられた。然るに事業主は戰爭の終ると共に、戰時中勞働者に讓步せる所を取返し、勞働組合を破壞し始めた。一九二一年三月、會社は平均十二パーセントの賃銀切下げの權利を『鐵道勞働委員會』より承認せられた。これによりて會社は四億ドルの利潤の增加を得ることが出來るのであつた。續いて又賃銀の切下げが行はれた。斯の如き賃銀切下げによりて最も大なる影響を受けたるものは、不熟練勞働者及び半熟練勞働者で、熟練勞働者は影響を受けることが非常に少かつた。これは勞働者を分立せしむる意識的計畫によるのであつた。

一九二二年七月一日、四十萬の鐵道職工がストライキをなした。數日を出でざるに多數の事務員及び保線工夫、鉛工、貨車取扱人及び不熟練勞働者が參加した。このストライキに於ては、軍隊及び職業的ストライキ破壞者が利用せられたる外、多數の學生もストライキ破壞者として利用せられた。『鐵道勞働委員會』はストライキをなしたる者は最早鐵道從業員に非ずと云ひ、他の勞働者を傭入れ、又新しく勞働組合を組織することを勸告してゐる。次で政府はストライキを鎭壓する責任を自ら引受け、裁判所の禁止命令が會社の爲めに發布せられた。斯の如くしてストライキは破壞せられ、勞働組合は殆んど全滅の有樣となつた。九月十三日賃銀切下げを認める協定が成立し、ストライキ破壞者は其職を維持した。斯の如き事業主に有利なる協定も、これに調印せる會社は少數に過ぎず、勞働者の復職せるものは約半數で、二十萬は爭議を續け、最後に至つて轉業又は無條件で復職した。

このストライキが失敗した理由は種々ある。第一に政府及び鐵道會社は費用を構はずストライキ及び勞働組合を破壞する決心を有した。第二に勞働者は七八の組合に分れ統一を有しなかつた。第三に『アメリカ勞働聯合』はストライキに全幅の支持を與へなかつた。第四に他の鐵道勞働組合の指導者は彼等に味方しなかつた。例へば『保線工夫勞働組合』に於てはストライキをなすべき一般投票ありたるにも拘らず、會長は發令しなかつた。これと同樣の事實は『アメリカ勞働聯合』に加入せざる技師、車掌、火夫、乘務員の組合にも存在した。彼等は種々の場合に於

て組合員に壓迫を加へ、ストライキを失敗に終らしめた。

この時代に於ては纖維勞働者、坑夫及び鐵道工場勞働者のストライキの外に、多くの重要なるストライキが行はれた。一九二一年十一月には『國際婦人服工組合』(International Ladies' Garment Workers' Union)がニューヨーク市に於て總ストライキをなした。これには五萬五千の參加者があり、九週間繼續したる後、勞働組合の勝利に歸した。又一九二二年六月には、同じくニューヨーク市の子供服製造業に於て『アメリカ合同被服工組合』の指導の下にストライキが行はれ、これと數日遲れて男子服製造業にもストライキが行はれた。一九二〇年より一九二三年に至る間は、最も烈しい大規模の勞働爭議が行はれたる時代であつた。勞働者は從來嘗て見ざる忍耐と連帶を示したが、全體より見れば勞働者は少からざる打擊を受けた。賃銀は悉に切下げられ、勞働組合の條件は殆んど艾除せられた。それ故に組合員の數は『アメリカ勞働聯合』に於ても其他の組合に於ても非常に減少した。

一九二六年のニュー・ジャーシー州パセイックの纖維勞働者のストライキはこの時代の特色ある事件で、共產主義者の指導せる大規模の最初のストライキとして、又勞働組合員に非ざる者の暴動として世間の注意を惹いた。パセイック市は典型的纖維工業の中心地であつたが、賃銀は非常に寡少で、ストライキ以前には五分の一强の勞働者が一週十ドル乃至十五ドルを受け、三分の一は十五ドル乃至二十ドルを受け、四分の一弱は二十ドル乃至二十五ドルを受け、其他の者が此範圍外にあつた。然るに一九二五年十月五日事業主は賃銀を十パーセント切下げた。其處で遂に勞働者は起ち、共產主義者の指導によりて統一戰線委員會が組織せられ、賃銀の復歸を要求した。これに對する應報は委員たる勞働者の馘首であつた。其處で先づボタニー工場に於て六千の職工がストライキをなし、間もなくガーフィールド工場及びパセイック紡績會社の三千の職工がこれに和した。斯の如くして數日中に一萬六千に達し、パセイック市全部の纖維工業は休止するに至つた。而して勞働者は從來の要求を捨て賃銀十パーセントの値上げ、賃銀切下げによる損害の賠償、時間外勞働、賃銀五割增、一週四十時間勞働、衞生狀態の改善、組合員特殊待遇の廢止、勞働組合の承認等の要求を提出した。

ストライキに就ては大規模の示威運動及び大衆の監視が組織せられ、婦女小兒に至るまで團結した。これに對する警察の壓迫は極端に達し、市民委員會の名の下に暴力團が組織せられた。勞働者側の統一戰線委員會の目的は、從來非組合員たりし勞働者を組織し、アメリカ勞働運動の主流たる『アメリカ勞働聯合』に『合同纖維勞働者組合』を通じて加はるにあつた。然るに『アメリカ勞働聯合』はストライキ勞働者を攻擊してゐたが、後には共產主義者アルバート・ワイスボールド(Albert Weisbord)が指導者たる地位を去れば、彼等を歡迎する態度を示すに至つた。而してワイスボールドが自發的に地位を去るに及び、パセイック市の勞働者は『合同纖維勞働者組合』に參加することを許され、この組合と事業主とが協議を開かうとした。然るにこれに反對の意嚮を有する勞働者は、再びストライキをなしたが、結局十二月十三日に至つて、次の條件を以つて解決を見るに至つた。その條件は、團結權の承認、團體交渉權の承認、組合工場制度を要求せざること、他の要求に就て協定成立せざる時、はこれを調停にかけること等である。斯の如き解決は十分とは言へないが、勞働者の勝利であつた。

次に最も多くの反響を與へたる事件は、一九二七年八月ボストンに於けるイタリー生れの勞働者二名、ニコラ・サッコー(Nicola Sacco)とバルトロメオ・バンゼッチ（Bartolomeo Vanzetti)の死刑事件である。彼等は何れも若くしてアメリカに渡り、勞働運動の闘士となつた。ニュー・イングランドに於ける製靴業と織維業には、長時間寡少賃銀を以て、勞働を强制せられたので、勞働者の間に不平が絶えなかつた。然るに一九一九年と一九二〇年との間に於ける赤化運動の取締にあたり、アメリカの平和と繁榮とに害ありとして、又は外國の無政府主義者として、多數の勞働者が捕縛せられた。其中にサッコーとバンゼッチとの二名も加へられた。然かも彼等は戰鬪的運動の犠牲に選ばれ、一九二〇年四月十五日某製靴會社の出納係と守衛とであるフレデリック・パーメンター（Frederick Parmenter）及びアレキサンダー・ベラルデリ（Alexander Berardelli）を殺害したる犯人なりとして、死刑の判決が下された。其處で彼等の助命の爲めに全國的に運動が開始せられ、『勞働（共產）黨』の如きは、死刑執行の前日總ストライキを行ふ計畫さへ樹てたが、保守的團體は多くの注意と努力とを彼等に與へなかつた。

一九二七年四月瀝青炭坑の賃銀協定が滿期となつた。然るに事業主はこの協定を更新することを拒絶したので、十州に於ける十七萬五千の炭坑夫がストライキをなしたが、勞働者の全敗に歸した。其失敗に就ては、過剩生產、失業、貨物運賃の特別待遇、政府の壓迫等が一部の原因をなしてゐるが、組合の內部の紛爭、資金の缺乏、指導者の近視的政策も亦、重大なる原因に數へられる。

一九二九年織維業の新興中心地たる東部テネシー州及び南北兩カロライナ州に於て組織的ストライキが起つた。而して南カロライナ州のストライキは大部分指導者を有しなかつたが、他の州に於ては『アメリカ勞働聯合』に屬する『合同織維勞働者組合』又は『勞働組合統一聯合』に屬する『全國織維勞働者組合』の指導を受けた。而して賃銀、勞働時間及び作業方法が爭議の中心問題であり、軍隊が出動し勞働者のみ壓迫を加へられ、事業主には行動の自由が許されてゐる。これ等のストライキの中最も有名なるは、北カロライナ州ガストニアに於ける『全國織維勞働者組合』の指揮したるストライキで、勞働者は一週四十五ドルの最低賃銀、一週五日四十時間の勞働、スピードアップの廢止、男女同額賃銀の支拂、住居及び勞働狀態の改善、勞働組合の承認を要求し、四月二日ストライキに着手し、漸次他の地方にも波及した。而してこのストライキには武裝せる警官隊との衝突が惹起され、又天幕合宿が襲擊を受け、多數の勞働者が捕縛せられた。これよりも更に慘虐であつたのは、北カロライナ州マリオンに於けるストライキで、長時間の勞働と賃銀切下げに反對して起つたのであるが、官權の爲めに六名の死者と二十名以上の負傷者を生じた。(Bimba, History of American Working Class Movement, pp. 293-314; American Labor Year Book, Vol. IV., pp. 39-42; pp. 193-200; Vol. V., pp. 99-109; Vol. VIII., pp. 105-109; Vol. X., pp. 135-142; Vol. XI., pp. 106-116; Schneider, Workers'(Communist) Party and American Trade Unions, pp. 38-59; Labor Fact Book, pp. 138-142; pp. 155-167)

二　政治運動

一九二二年二月、十六の鐵道勞働組合の役員が、シカゴに大會を開催して「進歩的政治活動」に關して討議をなした。出席者百二十四名の大部分は、勞働組合の代表者であつたが、『社會黨』及び『農民勞働黨』（Farmer Labor Party）の代表者も出席した。『農民勞働黨』はシカゴを中心地となし、一九二〇年の大統領選擧には二十六萬五千票を獲得したる政黨であつた。此大會の目的は、勞働者の單獨政黨を組織するにあらずして、既成政黨の地盤に立てる候補者中、概して進歩的にして比較的善良なる者を選定し、其當選を圖るにあつた。而して大會は十五名の執行委員を擧げ、政治運動に關して農民と都市の勞働者とが團結する第二段の手段を討議研究する爲めに、一九二二年十二月の適當の期日に、更に大會を開催する召集狀を發送する命令を受けた。この時に於て『アメリカ勞働黨』（Workers' Party of America）と『勞働組合教育聯合』（Trade Union Edncational Union）とは單獨政黨の要求を掲げ、『社會黨』は既にこれを實行に移してゐた。『アメリカ合同被服勞働者組合』、『國際婦人服工組合』、『合同鑛山勞働者組合』、『シカゴ勞働聯合』其他多數の大勞働組合が、單獨政黨に贊成であつた。それ故に勞働大衆は、非常なる興味を以て『進歩的政治活動會議』の次回の會合に期待して居た。而して共産主義者も亦單獨政黨の要求を掲げ、これに參加するの決意を有してゐた。

『進歩的政治活動會議』の第二回の大會は、一九二二年より十二月クリーブランドに於て開催せられた。此大會には凡二百萬の勞働者を代表する多數の勞働組合の代表者と、凡百萬の組合員を有する小數の農民組合の代表者とが出席した。大會は全國的及び國際勞働組合の反動的指導者が指揮し、地方組合は殆んど投票權を有せざる有樣であつた。而して資格審査委員會は、『アメリカ勞働黨』及び『アメリカ青年勞働者聯盟』の政策を此大會の目的及び主旨と相容れぬものであるとして、其代表者の出席を拒絶した。併し乍ら斯の如き決定を見るまでには、何れも單獨政黨を要求せるものなるを以つて、幾分か逡巡し時日を空費した。而して此大會は始めより既成政黨の道具であり、勞働者の單獨の政治的活動を却つて害するが如き行動をなした。『シカゴ勞働聯合』、『勞働被服勞働者組合』、『農民勞働黨』の代表者は勇氣を缺き、右翼の頑使に甘んじた。それ故に彼等は勞働黨の思想を殺戮するものであると酷評せられた。それは兎に角として此『進歩的政治活動會議』は、生産者及び消費者の爲めに、第一に鐵道法の改正、炭坑、水力、水力電氣の國家管理を要求し、第二に大統領の直接選擧、第三に議會の法律否認の廢止、第四に庶民金融の改善、第五に所得稅及び相續稅の增率、第六に各種の婦人勞働保護法の施行等を其綱領としてゐる。

此大會直後『農民勞働黨』は此運動から脫退し、一九二三年七月三日シカゴに總ての勞働者及び農民の經濟的、政治的團體に對して全國大會を開催する通知を發した。『勞働（共産）黨』はこれに贊成したが、『社會黨』は共産主義に反對すると共に、『進歩的政治活動會議』を支持した。而して『共産黨』は此時より活潑なる鬪爭を開始した。『勞働組合教育聯盟』は勞働組合の多數の支部に勞働黨に關する決議を送り、勞働者の單獨の政治活動熱は、各地に於て大いに昇つた。これに對して、保守的傾向を有する社會主義者及び勞働組合の幹部は、決して默して居なかつた。ゴムパースは『シカゴ勞働聯合』の指導者であり、同時に『農民勞働黨』の指導者でありたるジョン・フィッツパトリック（John Fitzpatrick）エドワード・エヌ・ノックル（Edward N. Nockle）及びロバート・エム・バック

（Robert M. Buck）が大會に共産主義者を招待し、彼の不偏不黨政策に反することに驚いた。

それにも拘らず豫定の通り七月三日大會が開催せられ、六百の代表者が出席した。併し乍らそれは主として都市又は地方の勞働組合、勞働黨、其他の勞働團體の代表者より成り、大規模の全國的勞働組合の代表者は居なかつた。この大會が勞働者又は勞働者と農民の政黨組織に賛成せることは當初より明かであつた。然るに『勞農黨』の幹部は『アメリカ勞働聯合』の壓迫に堪へないで、フィッツパトリックの如きは古き『勞農黨』に參加すべきことを主張した。これは大會の本來の主旨に反することであり、投票の結果五百票對四十票を以て、新しき政黨組織が進行することとなつた。『合同農民勞働黨』（Federated Farmer Labor Party）がこれである。此政黨は一切の公共事業の國有、勞働者及び農民本位の産業の經營を主義とし、社會立法及び農民の爲めの政綱としては、八時間勞働、産業國有、最低賃銀、少年勞働廢止、農民の負債に對する五ヶ年間の支拂猶豫、地主制度の廢止等、勞働者及び農民の直接の要求を掲ぐるものであつた。

『合同農民勞働黨』の組織によりて、單獨の政治活動の反對者は一層敵對行動を採るに至つた。『シカゴ勞働聯合』の指導者をも含む此一派は、新政黨を共産主義の團體であると云ひ、又アメリカに革命を起さしむるボルシェビキの企圖であるとも云つた。彼等の反對は相當の効果を齎した。新しき政黨の前途は幾分か暈を生じた。併し彼等は決して勇氣を失はず鬪爭を續けた。其時州内に於て勢力を有せるミネソタ州の『農民勞働黨』は、一九二四年七月十七日セント・ポールに全國大會を開き、次期の大統領選擧と全國的政黨組織を考慮する決心をなした。

これと同時に『進歩的政治活動會議』は次期の大統領選擧を論議する爲めに、七月四日クリーブランドに大會を開催し、大統領候補者として上院議員ロバート・エム・ラ・フォレット（Robert M. La Follette）を支持する動議が提出せられ、彼も亦極力此一派を稱讃した。併し左翼は勿論右翼も亦彼に重大なる意義を見出さなかつた。

一方セント・ポールの會議は出席者が比較的小數であつたが、『進歩的政治活動會議』に對する關係、ラ・フォレットに對する態度、勞働政黨組織の三つの問題を討論し、共産主義者及び共同情者が過半數を占める大會は、第一の問題に就ては共同戰線を主張し、第二の問題に就ては『農民勞働黨』に據り、全國委員會の統制に服する限りラ・フォレットを支持し、最後の問題に就ては勞働組合に共礎を置く政黨を可とした。併し乍ら第一の要求は『進歩的政治活動會議』の反對に會ひ、第二の問題に就ては『勞働（共産）黨』のみが素志を維持した。『アメリカ勞働聯合』、『合同被服業勞働者組合』、『社會黨』西部諸州の農民勞働黨の殆んど總てが、ラ・フォレットに味方した。然るに選擧開票の結果、彼は四百八十萬票を得たるに過ぎず、當選は夢想を許さぬ少數であつた。これは多くの同志の失望を招くこと頗る大であつた。加之、政治方面に於ける勞働者の統一を遺憾なく發揮した。

一九二七年に於ても同樣の反目を再び見た。一九二四年の選擧に於て、ミネソタ州の『農民勞働黨』は反動的指導者が殆んどこれを破壞し、爾來彼等は共産主義を排斥するに餘念がなかつた。此處には一九二八年の大統領選擧を述べる憾に先立ちて、先づ『勞働（共産）黨』に就て論述しよう。（American Labor Year Book, Vol. IV., pp. 84-88; Vol. V., pp. 142-171; Vol. VII., pp. 258-259; Vol. VIII., pp. 137-138; Oneal, American Communism, pp.

161-175; Bimba, pp. 324-330)

一九一九年に至るまでの『社會黨』(Socialist Party)の活動に就ては既に述べたことがある。(拙稿「ヨーロッパ戰爭とアメリカ勞働階級」三田學會雜誌、第二十六卷第五號參照)左翼派が分離して『アメリカ共產黨』(Communist Party of America)が組織せられたる以後の『社會黨』は完全に右翼の手に歸したが、急激に其同志を喪失した。而して一九二〇年のニュー・ヨークに於ける大會に於て、大統領選擧の爲めに主義及び綱領の宣言をなした。それによれば「……社會黨はアメリカの勞働者が、資本家階級から經濟的、政治的權力を剝奪することを希望する。それは彼等が新しき支配階級となる爲めに非らずして、總ての階級別を永久に除去する爲めである。……眞の勞働者の政黨は、產業の完全なる社會化を敢然として要求するものでなくしてはならぬ。……それは又教育、保健制度の社會化を提案する。……社會主義に轉化することは、政治的勝利のみにてよく完成せられるものではない。產業の再組織は、知識と思慮に富む勞働階級を必要とする。……而して現在の日常の鬪爭は、將來に對するよき訓練である」と述べてゐる。

『社會黨』の『勞働黨』に對する態度は、一九二三年五月ニュー・ヨークに開催せられたる大會に於て明かにせられた。其目的が勞働階級の共同戰線の組織にありとすれば、既に五年前、彼等の企てたる所であり、然らずして『共產主義インターナショナル』の政策を實行するものとすれば、勞働組合の內部に紛爭の種を播くものであると主張し、大會に彼等を招待することを拒絕した。社會黨の進步的政治活動會議の一九二六年二月の大會の席上で、新しき政黨の組織を提案したが、容れられざりし爲めに、遂にこれと關係を絕つに至つた。

一九二六年十月二十日『社會黨』の議長であり且つ五回に亘つて全國選擧に活動せるユージン・ビクター・デブス(Eugene Victor Debs)が死去した。葬儀は彼が一八五五年十一月五日誕生せるインディアナ州テレホートに於て行はれた。彼は始め『機關車火夫組合』に屬し、其書記を務めたが、後にこれより脫退して『アメリカ鐵道勞働者組合』(American Railway Workers)を組織し、一八九四年のプルマン工場のストライキを指導し、六ケ月の苦役に處せられた。彼は社會黨の創立者の一人であり、數種の刊行物を主宰した。尙彼は一九一八年九月戰時探偵法に觸れて、十年の苦役に處せられたが、一九二一年大統領ハーディングによりて放免せられた。

一九二六年五月ピッツバーグに於ける『社會黨』の大會に就て特記すべき事件は、アメリカが『國際聯盟』に加入すべきや否やの討議が行はれたことである。モリス・ヒルキット(Morris Hillquit)はこれに贊成し、ビクター・エル・バージャー(Victor L. Berger)はこれに反對した。ヒルキットは此政黨の國際書記であつた。バージャーは唯一の下院に於ける社會主義者であつたが、不幸にして一九二九年八月七日電車と衝突したる負傷が原因となつて死去した。彼は一八六〇年二月二十八日オーストリヤ・ハンガリーに生れ、青年時代にアメリカに渡り、社會民主黨の組織に參加し、一九一〇年下院議員に擧げられた。彼は數次『アメリカ勞働聯合』の大會に於てゴンパースと論爭し、デブスの死後『社會黨』の議長に擧げられた。却說『社會黨』は一九二六年の國會選擧に於ても長文の綱領を發表したが　一九二八年に於ても種々の問題に亘る綱領を發表した。それは自然的富源の公有、失業救濟、

勞働立法、課稅、司法問題、私刑廢止、政治的民主主義、信用及び金融、農業救濟及び國際關係に亘つてゐる。

急進的政治運動の中心は共產主義者の間に移つた。併し乍ら彼等の政黨組織は、容易に實現せられなかつた。而して一九二一年十二月ニュー・ヨークに開催せられたる『勞働黨』（Workers Party）の創立總會は、一切の共產主義者及び急進的社會主義者を包括してゐた。彼等はアメリカの帝國主義を非難し、これに反對して鬪爭することを聲明した。又此政黨は各方面に單一の勞働組合を組織する主義に贊成し、二重の勞働組合主義は廢止せられねばならぬと述べてゐる。一方に於て一九二二年八月衰微せる『共產黨』は、ミシガン州ブリッヂマンに大會を開催したが、此時三十名代の表者が捕縛せられた。而して翌年六月七日に至り、決定的に解散することとなり、『勞働黨』が代つて『共產主義インターナショナル』のアメリカ支部となるに至つたのである。

『勞働黨』は一九二二年十二月、ニュー・ヨークの第二回大會に於て、新しき共產主義綱領を採擇した。即ち彼等は「被搾取階級の利害關係が含まれるあらゆる鬪爭に參加し」……「勞働者の大衆の權力を發展せしむることに努力する。」彼等は「多數の勞働者を結合せしめ、普通の鬪爭を階級鬪爭たらしめることを圖る」のである。又彼等はアメリカの無產階級が政治的運動のみを以つて、資本家の搾取から自ら開放することは出來ないと公然と主張する。然も彼等は「勞働階級の政治的自覺を發達せしむる爲めに、選擧戰の重要なることを知らしめる」が故に、議會の選擧に參加する。彼等はまた職業別勞働組合に勞働者が分割せらるるは、勞働者の進步に非常なる障害をなしてゐるのみならず、總ての勞働組合は其政策の根本的誤謬、即ち協調主義になやまされてゐると云ふ。

『勞働黨』（Workers' Party）は一九二五年八月のシカゴに於ける第四回大會に於て『勞働（共產）黨』（Workers' (Communist) Party）と改稱した。一九二三年十二月より一九二四年一月に亘る第三回の大會に於て、政黨に關する問題に就て、中央執行委員の間に意見の分裂を生じたが、ウィリアム・ズィー・フォスター（William Z. Foster）を主腦とする一派が多數を占め、チャールズ・イー・ルーゼンバーグ（Charles E. Ruthenberg）が少數派を代表した。『進步的政治活動會議』に關聯せるセント・ポールの會議と、フォスターとベンジャミン・ジトロー（Benjamin Gitlow）を正副大統領補候者に擧げたる選擧戰とが、黨の直接の注目を惹いたが、中央執行委員會の多數派は「吾等の目的は、農民と勞働者の政黨の組織にあらずして、『勞働黨』の勢力の伸展と發達とにあると主張した。これに反して小數派は、階級的農民と勞働者の政黨の爲めに鬪爭することを、第一の義務に數へた。此問題に就ては兩派の間に激烈な論爭が繰返され、結局一九二五年三、四月のモスコーに於ける『共產主義インターナショナル』の擴大執行委員會に提議せられることとなつた。而して小數派の見解が可決せられ、且つ兩派に紛爭を停止すべきことを强く要求した。斯の如き事情であつたから、前述の第四回の大會に於ては「吾等の政黨は再び宣傳機關たることを防止する時期を脫し、ボルシェビキ化する時代に入つたこと」を主張し、所謂「博學派」（Lore group）の日和見的傾向を排擊することを聲明した。尙ほ此大會に於て、政黨は工場細胞の基礎に再組織せられることとなつた。地域的支部制度は『社會黨』の形態であつて『共產黨』の目的に合致しない。『共產黨』は勞働者が生活を營み搾取せられ、日常鬪爭をなす場所、乃ち工場、職場、鑛山に於て組織せられねばならぬのである。

第五回大會は一九二七年八、九月ニュー・ヨークに於て開催せられ、アメリカ全土、東西の諸州から五十名の代表者が出席した。此大會の討議の特色は、黨の組織の統一と勞働大衆に對する勢力の擴張とであつた。而して主觀的幷に客觀的情勢が不利なるにも拘らず、前回の大會以後少からざる發展を遂げたことが大會に於て記錄せられた。勞働政黨の爲めの運動、外國生の勞働者の保護、戰爭の危險、支那及びニカラグァに於けるアメリカの帝國主義的掠奪に對する反對、勞働爭議に對する禁止命令の廢止、サッコー・バンゼッチの死刑に對する助命運動、パセイック市の織維勞働者のストライキと、ニュー・ヨーク市の裁縫關係業勞働者のストライキとに於て、共產主義者は最前線に起つた。此第五回大會は、政治的にも又思想的にも非常なる進歩をなしてゐることが、政黨の直面せる問題幷に勞働運動全般に亘る問題の取扱に於て見出された。

一九二八年に於ける『勞働(共產)黨』の活動は、外に對してはアメリカ帝國主義の排擊とソヴィエット・ロシアの支持、アメリカに於けるファシスティの攻擊があり、內に對してはペンシルベニア及びオハイオー兩州に於ける炭坑ストライキ、婦人服業、毛皮業　裁縫業のストライキ等がある。而して此年の大統領選擧に對しては、三月のニュー・ヨーク市の大會に於て、前回と同樣フォスターとジトローをそれぞれ正副大統領候補者に指名して活動した。次で一九二九年にはジェイ・ラブストーン(Jay Lovestone)、ベンジャミン・ジトロー　(Benjamin Gitlow)、バートラム・ウォルフ　(Bertram Wolfe)及び其同志の除名、『共產黨』(Communist Party)の組織、『勞働組合統一聯盟』(Trade Union Unity League)の組織、ガストニア市の爭議及びニュー・ヨーク市の選擧戰等の事件が起つた。三月『勞働(共產)黨』の大會はラブストーン等の多數派の指導の下に開催せられた。然るに『共產主義インターナショナル』の執行委員會から、多數派と小數派の兩者に對して或種の要求が提出せられたが、ラブストーンはこれを拒絕した。其處でアメリカの指導者はモスコーに召致せられたが、依然として多數派はその態度を改めなかつた。それ故に『アメリカ共產黨』の中央委員會は、六月に入つて斷然ラブストーンを除名し、八月更にジトロー、ウォルフ及び他の著名なる共產主義者若干を除名し、十月には中央委員を補充して陣容を堅實にし、アメリカに於ける經濟的幷に政治的情勢と『共產黨』の任務に關する論說を發表した。此時除名せられたる共產主義者は、十一月に至つて『アメリカ共產主義聯盟』(Communist League of America)を組織した。この團體の進歩的團體に對する態度は、共產黨』の態度と正反對であつた。尙ほ『勞働黨』と協同して活動せるものに『青年勞働者聯盟』(Young Workers League)がある。これは青年共產主義者の團體であり『青年共產主義インターナショナル』(Young Communist International)の一部を構成してゐる。(American Labor Year Book Vol. V., pp. 125-142; Vol. VII., pp. 229-257; Vol. VIII., pp. 117-138; Vol. X. 143-174; Vol. XI., pp. 117-146; Vol. XII., pp. 139-172; Bimba, pp. 315-323; Labor Fact Books pp. 197-205)

三　勞働組合運動

一九一九年より一九二二年に至るヨーロッパ戰爭後の四年間は、アメリカ勞働運動史に於ける最大の勞働紛爭の

時代であつた。而して此時代はまた勞働階級が慘敗を喫したる時代であつた。其處には戰線の統一は存在せず、製鋼勞働者と鐵道工場勞働者とは總計殆んど一百萬に達するが、彼等の勞働組合は完全に破壞せられ、また凡五十萬以上の坑夫の參加せる鬪爭も亦失はれた。これ等の失敗は職業別勞働組合主義が時代遲れのものであり、强力なトラストや事業會社と抗爭し得ざることを示すものであると論ずる者もある。既に述べたるが如くアメリカの勞働者は既成政黨に屬し、從つて政治には殆んど多くの勢力を揮ふことが出來ない。階級鬪爭は、職業別勞働組合を產業別の基礎の上に再組織し、合同して資本家階級に當ることを要求する。それと同時に既成政黨と分立し、單獨の政黨を組織し、以て產業界並びに政界に於て、一階級として資本家に對抗し得る樣にしなくてはならない。然るに斯の如き階級鬪爭を排斥する勞働組合の指導者がある。ゴンパース及び鐵道勞働組合の如き獨立の勞働組合の指導者は、階級協調を主張してゐる。彼等は階級鬪爭を否定し、或は『全國市民聯合』(National Civic Federation)其他の團體を通じて資本家階級と關係を結んでゐる。

『アメリカ勞働聯合』の第四十三回大會は一九二四年十一月テキサス州エル・パッソーに開かれたが、此大會に於て彼等は所謂產業民主制度の目標を承認した。これは正當なる勞働に對する正當なる賃銀を意味するものであり、資本家は依然として資本家であり、勞働者は永久に勞働者として止ることを意味する。然も此產業民主制度に於ては階級鬪爭は存在しない。ストライキ及び爭議は消滅する。勞働者は勞働を搾取して最大の利潤を事業主に齎すことを、自發的に務めるに至るのである。ゴンパースは此大會に於て極力勞働組合の革命的性質を否定し、「勞働組合はマルクス主義の政治學說に傾倒しては居ない。彼等は寧ろ私的又は共同的活動に依賴する各種の機關に多くの興味をもち、これに參加せんとしてゐる」と述べてゐる。加之、產業民主制度は勞働階級のみの力によりて實現することは不可能であり、事業主の援助を必要とするのであると主張する。

一九二四年十二月十三日サムエル・ゴンパースが死去し『合同鑛山勞働者組合』の元の財務書記ウィリアム・グリーン(William Green)が其後を襲つた。併し『アメリカ勞働聯合』の方針には何等の變化がなかつた。グリーンは其就任當時、政府の官吏及び資本家より歡迎を受けた。彼は組合の最初の執行委員會に於て、資本家との協調の必要を力說し、又ハーバード大學に於ける講演に於ても、同樣の主旨を述べてゐる。即ち彼は「相互に理解すれば勞働と資本とは憎み合ふことが出來ない」と云ひ、又「勞働組合運動は暴力が最も有效なりし時代を過ぎた。今は共指導者が會議室を求め、平和の中に一切を解決する時代である」と云つてゐる。尙彼は共產主義運動に反對する爲めには、資本家と共力を辭しないことを明かにした。其後に於けるグリーンの言動も、これ等の主張を裏書してゐる。例へば一九二七年七月五日の勞働祭(Labor Day)に於ける彼の演說も其一つである。彼は資本家との間の關係を維持するには、互助、理解及び尊敬を必要とすると述べてゐる。

『アメリカ勞働聯合』は古き職業別勞働組合の精神を維持し、彼等は不熟練勞働者の團結又は未組織勞働者の團結に多くの力を注がなかつた。それ故に一九二九年十月トロントに於ける第四十九回大會に於て、南部諸州の組合運動に關して問題が起つた。彼等が三十年間南部諸州の織維勞働者を顧みなかつた。それ故に今や共產主義者の跋扈

に遭ひ、事業主と政府との組織的壓迫に苦んでゐる。『アメリカ勞働聯合』は勞働貴族である。總ての貴族は頽廢しつつあると報導せられた。勿論これは大會に於て論駁せられたが、實際に於て斯の如き缺點が全然存在しないとは云はれない。尙『アメリカ勞働聯合』は既成政黨を支持し、單獨の勞働政黨には反對の意見を有した。此大會に於てもグリーンは時期尙早を理由として擧げてゐる。彼等の共産主義に對する態度は、ブルークウッド學院（Brookwood College）に對する財政的援助を中止すべしと云ふ問題にこれを見ることが出來る。それは一九二八年のニュー・オルリーンズの大會に現れた。此學院の院長が共産主義者であり、且つ三人の教授はニュー・ヨークの勞働（共産）學校の顧問であり、學院に於ける講義は『アメリカ勞働聯合』の主義に反すると主張せられた。此問題に就ては投票をなすに至らなかつたが、彼等が如何に神經過敏であるかを示すものである。

勞働運動に於ける革命的分子を擊破し、保守的分子を結合せしめてこれを利用するのが、何れの國にも見る資本家階級の政策であつた。而してこれが爲めに利用せらるる手段は少くない。そのアメリカに於て最も有力なるものとしては、所謂バルチモア・オハイオー鐵道の考案として知られるものがある。これは勞働組合の承認せる技師を使用して生産能率を上げ、無駄を省略し、生産費を減じ、且つ好ましからざる勞働者と組合の規則を徹廢する協定であつた。これによりて勞働組合は、勞働者に對して親方たる權利を得ることとなり、能率の低きものを解雇せしむるに至るのである。此考案は一九二五年のポートランドの大會に於て『アメリカ勞働聯合』の承認を得た。

階級協調の第二の形態としては勞働銀行がある。アメリカに於ける最初の勞働銀行は、一九二〇年クリーブランドに『機關車機械工組合』（Brotherhood of Locomotive Engineers）が設立した。其後勞働銀行は各地に續々設立せられたが、起伏常ならざる經過をとり、一九三〇年末に於ては、二十三行で六百萬ドルの資本を擁してゐる。勞働組合の機關紙は此事業を熱心に論じてゐるが、勞働組合に如何なる影響を齎したかを明かにしない。それは却つて組合の墜落を招く場合が多い。現に前述の機關車機械工の組合は、西バージニヤ州に炭坑を購入し、非組合的に事業を經營した。此組合の會長ワーレン・エス・ストーン（Warren S. Stone）は其在職二十二年に亘つて一度もストライキに參加しなかつたと云はれ、果して勞働組合の本來の使命を正當に理解せるや否やを疑はしめる。

勞働銀行は組合の財政を保障するか、又は組合員が貯蓄をなす機關として設立せられたと考へてはならぬ。それは目的ではない。寧ろ勞働銀行は勞働者の鬪爭の機關となるのである。換言すれば勞働銀行が勞働組合に代りて資本家と戰ふのである。併し乍ら此理想は實現せられない。それは保守的勞働組合の途を歩むことが多い。斯の如くして勞働銀行は事業主に對しても有用なる場合がある。被服業に於ては會社が勞働組合と妥協しやうとする時、金融を受けたる銀行がこれを欲しない爲めに、ストライキを繼續しなくてはならぬことがある。此場合に勞働銀行と取引せるものとすれば事情は全く異であらう。斯の如くして前述の『機關車機械工組合』の銀行の頭取は「資本家となることが出來る時に、誰人がボルシェビキにならうか。我々は油と水を混合せしめる方法を示し、資本と勞働を協調せしめる方法を示した。……機械工は自ら資本家となるのである」と云つてゐる。これは勞働銀行の眞面目を物語るものである。

階級協調の第三の形態は各種の保險である。勞働組合運動の初期に於ては、相互救濟又は保險團體として活動したる組合が少くない。アメリカに於ては鐵道勞働組合が此著例をなしてゐる。併し乍ら階級闘爭が激烈になるに從ひ賃銀を保護する必要が益々大となり、勞働組合の保險的職分は小となり、眞の勞働組合となるに至つたものが多い。然るにヨーロッパ大戰後資本家の攻擊が高まり、組合員が減ずるに及び、多數の指導者は組合の保險的職分を重要視するに至つた。これは勞働組合の根本的轉向を意味するものである。勞働保險の計畫は、勞働組合の事業が純然たる資本家の事業と考へられる危險がある。それにも拘らず一九二四年の『アメリカ勞働聯合』のテキサス州エル・パッソーに於ける第四十三回大會は此計畫を承認した。而してこれに參加せる指導者達は、全力を擧げて保險事業に着手することとなつた。併し乍ら此計畫が十分に成功することは到底期待出來なかつた。『合同勞働生命保險會社』(Union Labor Life Insurance Co.)が一九二六年、六十萬ドル全額拂込の資本金を以て生命保險、健康保險及び傷害保險業を開始し、現在七州及びコロンビア區に於て營業を許されてゐる。『合同協同生命保險會社』(Union Co-operative Insurance Association)は一九二四年以來、最古の勞働者の經營せる保險會社として現在にまで及んでゐる。前者は一九一三年以來『アメリカ勞働聯合』の研究せる問題を實現したのであつて、株主は全國組合、都市の獨立せる組合又は地方支部が所有し、其所有株式の最高限度も劃せられてゐる。後者は一九二六年、組織せられたる『電氣勞働者保險會社』(Electrical Workers' Insurance Co.)より起つたものである。

階級協調を主張する勞働組合の指導者は、平組合員の戰闘的精神に抑壓を加へる。ストライキは時代遲れであると彼等は確信する。これに依賴するのは極めて稀なる場合に限られると彼等は主張する。斯の如き抑壓政策より屢々ストライキ破壞の行動に出ることがある。一九二三年五月一日マサチューセッツ州ブロックトンの製靴勞働者が賃銀維持の爲めにストライキをなした。此ストライキは間もなく同樣の事情にありたる勞働者に傳播して、殆んど二萬人を含むに至つた。此時『製靴勞働者組合』(Boot and Shoe Workers' Union)は一切の爭議を調停機關に掛ける協定を固守し、公然とストライキ破壞の爲めに資本家及び政府と協力した。同年ニュー・ヨーク市の印刷工も賃銀値下に反對してストライキをなし、爲めに新聞が休刊するに至つた。此時『プレッスメン組合』(Punting Pressmen's Union)の會長ジョージ・エル・ペリー(George L. Perry)は傭主を援助し、多數のストライキ破壞者を他の都市より迎へ、ニュー・ヨークの支部を除名し、遂に印刷工を大敗せしめた。又此前年十一月にはペンシルベニア州ピストンの坑夫が事業主の協定違反の爲めにストライキをなした。此時『合同鑛山勞働者組合』の支部長は、此ストライキを不法なりとして復業を命じた。其後に於てもニュー・ヨーク市に於ける一九二六年の時計職工のストライキ、一九二七年の毛皮職工のストライキは、何れも組合の指導者が事業主及び政府に公然と味方して、彼等の戰闘的團體を粉碎せしめた。此裏には指導者達の志操に關する非難すべき問題もなくはないが、其根本は勞働貴族を生みたるアメリカの事業上の餘剩利潤にある。(Bimba, pp. 341-351; American Labor Year Book, Vol. IV., pp. 119-139; Vol. V., pp. 47-64; pp. 233-244; Vol. VII., pp. 83-97; pp. 323-330; Vol. VIII., pp. 172-174; Vol. X., pp. 113-121; p. 229; Vol. XI., pp. 57-69; pp. 197-199; Vol. XII., pp. 68-81; pp. 242-245)

併し乍らアメリカの勞働組合の總てが斯の如き協調主義を取り、總ての指導者が腐敗せるものばかりではない。少數の併し乍ら有力なる左翼が存在した。其第一に擧ぐべきものは『勞働組合教育聯盟』(Trade Union Educational League) で、これは一九二〇年十一月組織せられた。此團體はウィリアム・ズィー・フォスター(William Z. Foster) によりて一九一六年組織せられ、翌一九一七年分裂したる『國際勞働組合教育聯盟』(International Trade Union Educational League) の後身であり、また一九二二年の『北アメリカ・サンディカリスト聯盟』(Syndicalist League of North America) の系統をも繼承してゐる。此團體が創立の翌年二月發表せる主義及び綱領によれば

「此團體は……資本と勞働との利害關係の調和に關する囈言を主張せず、資本主義の徹廢及び勞働者共和國の建設の終局の目的を弘布せしめ、勞働者の理想主義及び精力を解放せしめんとする。此團體は職業別勞働組合の代りに產業別勞働組合に贊成する。職業別勞働組合は資本主義の初期に於ては有用であつたが、今や完全に時代遲れのものとなつた。資本家の大同團結に直面せる勞働者は、彼等の階級を結合する必要がある。然らざれば滅亡の外ない。多數の職業別勞働組合は、種々の產業別勞働組合――金屬業、鐵道業、被服業、建築業等にそれ〴〵一づつ――に合同しなくてはならぬ。此團體は、又アメリカの勞働者を他の諸國の戰鬪的勞働組合員と協力せしむることを目的とする。……それは又『赤色勞働組合インターナショナル』(Red International of Trade Unions) として知られたる戰鬪的國際勞働組合運動に加盟することを勸告する」。

次に組織形態の問題に就ては左の如く述べてゐる。乃ち此團體は加盟者を地方別及び產業別の二つに分つ。各都市には地方總グループがあり、各種產業別に分れる。而して全國通信書記を通じて、總ての地方總グループが相互に連絡を保ち、これと同樣に地方產業教育グループも亦、全國的に各產業相互の連絡を保つのである。而して實際に於ては、十四の產業部門が數へられ、アメリカ全國は、東部、中部、西部の三つに區分せられ、此外カナダとメキシコとが加はつて五區分をなしてゐる。『勞働組合教育聯盟』は勞働組合ではない。これは全勞働組合運動內に於ける進步的革命的分子を非公式に結合し、組合大衆の中心となりて、これ等のものが其本來の職分を行ふに資するのである。これは二重組合ではない。これは勞働組合に代るものに非らずしてこれを助成するものである。

『勞働組合教育聯盟』の第一回全國大會は、一九二二年八月シカゴに開催せられ、合衆國及びカナダの工業中心地より四十五名の代表者が集つた。此大會數日前に、中心人物たりし共產主義者が捕縛せられ、會議中にも官憲の壓迫があつたにも拘らず、勞働組合の官僚化を非難し、又不偏不黨の政治政策を非難し、單獨の勞働階級の政治活動の爲めに奮鬪することを誓つた。此第一回大會に於ては、各職業別の活動の計畫が定められ、單に一般的宣言の基礎を定めたるのみならず、具體的研究の基礎を定めた。

『勞働組合教育聯盟』の主なる標語の一つをなす職業別勞働組合の合同は、直に全國に反響を生じた。一九二二年の勞働爭議の經驗は職業別勞働組合の無用なることを敎へ、彼等が何等の勢力を有せざることを示した。反動的指導者は勿論これに反對した。それにも拘らず少からざる組合の合同が行はれた。第二の標語は單獨政治活動であつたが、これに就ては『勞働組合教育聯盟』は『勞働(共產)黨』と協力して、勞働組合に基礎を置く包括的勞働黨の

組織を援助する運動に着手した。而して第三の問題は非組合員の組織に關するものである。アメリカに於ては、勞働組合に加入せる勞働者は僅少なる部分に過ぎない。組合に加入し得る勞働者三千萬中、實際加入せるものは四百萬に過ぎない。保守的指導者は大衆を組織しやうとしない。それ故に此任務は左翼勞働組合に殘された。

左翼勞働組合の活動に就ては、新聞、資本家、保守的勞働組合の幹部は、其存在を無視してゐたが、一九二三年三月『シカゴ勞働聯合』が合同に贊成の決議をなすに至り、彼等を驚倒せしめた。ゴンパースは共産主義者の活動に沈默を守る能はざることを述べ、更らに『勞働組合教育聯盟』等に對する政策を議し、又『勞働(共産)黨』に對する非難も盛んとなつた。それにも拘らず各地に於て左翼の活動が具體化した。例へば一九二三年のシカゴに於ける左翼鐵道勞働組合を組織する會議には、全國十六の鐵道勞働組合が盡く非公式に代表者を送り、同年のピッツバーグに於ける進歩的坑夫の會議には、十二の合同鑛山勞働者組合の地方部が代表者を送つた。

『勞働組合教育聯盟』の第二回大會は、一九二三年九月シカゴに於て開催せられ、アメリカ及びカナダの九十の都市から代表者が出席した。過去に於ける此團體の活動は誠に眼覺しいものがあつたが、此會議に於て再び目的と組織に關する宣言を繰返した。『勞働組合教育聯盟』も不偏不黨の大衆を惹附るに十分でないと、一九二六年二月より三月に亘りモスコーに開催せられたる『共産主義インターナショナル』の擴大執行委員會は聲明した。それは更に多數のものを包括するように再組織せられねばならぬ。又それは會社組合を破壞し、勞働組合を組織すると云ふ標語に力を置ねばならぬのであつた。而して一九二六年には裁縫業關係に共主力を注いだ。此方面に於ては共産主義者及び共密接なる同情者が、ニュー・ヨークとシカゴとに於て二個の組合グループを支配してゐた。尙ニュー・ヨークに於ける毛皮業及び婦人服製造業に於けるストライキは彼等の支配する所であつた。

左翼勞働組合運動の勃興に對して、沈默を守ることが出來なくなつた勞働組合の指導者は、恐怖、壓迫の時代を作るに至つた。彼等は『勞働組合教育聯盟』及び『勞働(共産)黨』は現在の職業別勞働組合の破壞を目的とするものであるから、これに屬する人々は勞働組合に止ることを許さないとして、除名政策を執るに至つた。この政策はシカゴに於て『國際婦人服製造工組合』の最も活動せる鬪士數名が、一九二七年三月組合から追放せられたるに始る。而して役員選擧に際して左翼派は差別待遇をせられたるにも拘らず、一九二四年五月の全國大會に於て十六名の共産主義者と共同情者とが選出せられた。これに對して反動派は、勞働組合の敵なりとして彼等を大會より追放した。また『國際毛皮勞働者組合』に於ては鬪士と戰ふ爲めに暴漢を傭入れ、多くのものが醫療を必要とするまで毆打せられた。『アメリカ勞働聯合』に於ても追放が行はれた。乃ち一九二三年の大會に於ける代表者ウィリアム・エフ・ダン（William F. Dunne）が『勞働(共産)黨』の中央執行委員であつたので、これを除名した。

『合同被服勞働者組合』のフィラデルフィヤに於ける一九二四年五月の大會に於ては、左翼と右翼とは共勢力を等しくしてゐた。共處で會長ヒルマンは中立を說へ、彼の要求する所は統一であると主張して切拔けた。併し乍ら大會が終るや否や左翼の壓迫を圖り、一九二五年には最も極端に達した。ニュー・ヨークに於ては個人が除名せられたるのみならず、第五地方支部全部が再組織を命ぜられた。

『合同鑛山勞働者組合』の總協議會は、總ての地方支部及び組合員が革命的綱領を有する國際委員會と關係することを禁じた。然るにカナダの支部が『赤色勞働組合インターナショナル』に參加する決議をなした。これに對して組合の會長ジョン・エル・リュイスは決議の取消を命じた。然るに其後この支部は、製鋼業のストライキに同情してストライキをなしたので、リュイスは支部の役員を解任し、これ等のものを騷擾罪として投獄することに力を貸した。此外カンサス州に於けるアレキサンダー・ホワート（Alexander Howat）の指導する支部に對しても、同樣の壓迫が加へられた。

『國際婦人服勞働者組合』に於ける壓迫政策は一九二五年其頂上に達した。ニュー・ヨークの三大支部及び『外套製造工合同委員會』は其役員に共產主義者を選出した。これに對して反動派は直に壓迫を加へたが、結局三ケ月の苦鬪の後彼等の政策は中止せらるる外なかつた。一九二六年七月ニュー・ヨークの外套及び盛飾衣製造工がストライキを爲した。それは賃銀の値上と四十時間勞働を要求し、共產主義者の支配せるストライキであつた。勞働者は戰鬪的精神を發揮し、每週大衆運動を起し、多數の勞働者が捕縛せられた。この爭議は一九二八年六月まで四十二時間勞働を行ひ、其後一年間四十時間勞働を行ふことと、賃銀を三ドル乃至九ドル値上することによりて解決せられた。此爭議の後間もなく、合同委員會に於ける右翼と共產主義者及び左翼との間に內訌が盛んとなつた。

これと同樣の事情が『毛皮勞働者組合』にも發生した。一九二六年二月ニュー・ヨークに於てストライキが行はれ、勞働者の完全なる勝利を以つて終つた。アメリカ勞働運動史に於て、始めて四十時間勞働が行はれるに至つたのである。然るに此ストライキの勝利に對して反動派は恐怖を懷き、極力指導者の不利益を圖つた。彼等は既に裁縫業關係の左翼の勝利によりて、協調主義の破滅を自覺すべきであつた。然も尙彼等の政策を維持する爲めに、公然と事業主及び政府とも握手することを敢てするに至つたのである。

最後に『勞働組合敎育聯盟』の後繼者として一九二九年八月クリーブランドに於て『勞働組合統一聯盟』（Trade Union Unity League）が組織せられた。此團體の活動に就ては既に論及したところであるが、勞働組合の存在せざるか又は無氣力なる產業に於て、革命的產業別勞働組合の組織を促進することを目的とし、大衆の直接行動によつて古き勞働組合を合同せしめることに努力し、『ソヴィエット聯合』を支持し、帝國主義戰爭を絕滅せしむることに努力する。書記補ジャック・スタッケル（Jack Stachel）の言葉によれば『勞働組合統一聯盟』は階級鬪爭の主義の上に建立せられ、資本主義を徹廢し、これに代るに社會主義的形態の社會を以てする團體である。これは『赤色勞働組合インターナショナル』に加盟し『合衆國共產黨』と共に政治鬪爭をなし『ソヴィエット聯合』支持の爲めに戰ふ。加ふるに勞働時間短縮、賃銀値上を要求し、又スピードアップ制度反對の爲めにも戰ふのであつた。（Timba, pp. 331-340; Oneal, pp. 176-193; Foster, Tankruptcy of American Labor Movement; Schneider, pp. 60-104; American Labor Year Book, Vol. V., pp. 86-92; Vol. VII., pp. 184-185; Vol. VIII., p. 100; pp. 107-111; Vol. X., p. 134; Vol. XI., pp. 95-104 Vol. XII., pp. 125-128; Labor Fact Book, pp. 135-138）

（昭和七年九月四日稿）